（小・中学生の部）

最　優　秀　賞

「一つの言葉」

その言葉言っても大丈夫？言葉は取り消せない。その一言で誰かが傷つくかもしれない。悲しむかもしれない。後から後悔しても、言葉は取り消せない。一言を考えるだけで相手を傷つけずに済むかもしれない。

優　秀　賞

「いじめているという事実には自分では気付けない」

SNS の発達によって、新たないじめの手段が生み出されてしまった。誰が被害者や加害者になってもおかしくない。もしかしたら自分も誰かを傷つけているかもしれない。その気持ちを絶対に忘れないでほしい。

優　秀　賞

「なりたい自分」

ベビーカーを押している人、白杖の人、体の不自由な人、お年寄り。困っている人を見かけた時に「お手伝いする事ありませんか？」この一言が言える人間になれるといいねと母は言う。そんな大人になれるようになりたい

優　秀　賞

「人の気持ちを考えて」

ひとことの悪口、１回の無視。あなたにとっては「たった」１回のこと。でも友達や相手にとっては「ずっと」消えない深い心の傷となる。今、自分の行動をふり返ってみよう。相手の気持ちを考えて行動していましたか？

佳　作

「先生ありがとう」

私は昔、ちょっとしたいやがらせを受けていた。先生に話すと、笑顔でうんうんと聞いてくれた。うれしかった。私がどうしたいか、一生けん命聞いてくれたから。先生のおかげで、今は毎日が楽しい。先生、ありがとう。

佳　作

「言葉」

言葉は水みたいだ。あたたかくなり、冷たくもなる。温泉につかってるみたいになったり、おぼれそうになったりする。言葉で相手を沈めないようにいつもあたためておきたい。

佳　作

「誹謗中傷」

最近では SNS での誹謗中傷が増えてきています。顔が見えないから悪口をかいたり、誹謗中傷で亡くなった方もたくさんいます。言刃を向けるのではなく心を向けてください。これ以上 SNS から SOS を出さないで。

佳　作

「おじいちゃんへ」

「人は失って初めて大切さに気づく」。そう気づかせてくれたのは、最近他界した私のおじいちゃんでした。もっとお話したかったなと後悔しています。また、生きているのが当たり前ではない事を学ばせてもらいました。

佳　作

「言葉の重み」

SNS。きっとそれは、誰かを傷つけるためのものではない。私たちが生きやすい世の中をつくるためのもの。それなのに、誰かの言葉で誰かが命をたってしまう。あってはいけないことなのに。自分の言葉に責任をもとう

（高校・一般の部）

最　優　秀　賞

「ノーモアヘイトクライム」

私は日本で生まれて日本で育って日本語を話す。日本人ではないけれど、日本で暮らす一人です。それではだめですか？それだけでは共に歩む仲間になれませんか？ノーモアヘイトクライム！叫ぶ声の輪が広まるように。

優　秀　賞

「大切な仲間へ」

俺、アイヌなんだ。小学校 6 年生の時、クラスの人気者が突然みんなの前で告白した。けれども、彼が大切な仲間である事に変わりはなかった。あれから 12 年。今もどこかで彼が彼らしく過ごせていることを祈っている。

優　秀　賞

「先生の涙」

先生が、見て見ぬふりの無関心をみんなに問いかけた。感じないのか、彼の心の痛み。考えないのか、彼の人としての気持ち。「ひとりじゃないぞ。人に負けるな」と、先生が咽び泣く姿が頭の奥に残っています。

優　秀　賞

「温かさは人を救う」

私が傷付いて学校に行けなくなって苦しんでいた時にずっと支えてくれた家族や先生や友達。今度は私が苦しんでいる人を助けられるような人になりたい。人の温かさは、苦しんでいる人を救うと知ったから。

佳　作

「認知症の母へ感謝」

母も88歳になった。認知症を患って何年になるだろうか。認知症への理解も自然と深まるものである。高齢者や他人の言動に優しく対応できる自分がいるのも、母のおかげと感謝している。

佳　作

「戻ってきてな」

コロナに感染して会社を休んだ。「申し訳ありません」と電話口で何度も謝る私に上司は言った。「元気になって戻ってきてな。うちには君が必要だから」。復帰した時、温かく迎え入れてくださった皆さん。ありがとう。

佳　作

「バリアフリー」

建物のバリアフリーは、どんどん増えていく。障害のある娘と一緒にいると気付く。娘は心に壁を作らないことを。お金もかからない、すぐにできる、心のバリアフリーがみんなに広がりますように。

佳　作

「自分を見つめることから」

いじめはいけないと子どもたちに教えながら大人のいじめに目をつぶっていた私。差別をなくそうと言いながら自分の中の差別や偏見に気づいた私。人権問題への取り組みは自分を見つめることから始めたい。

佳　作

「かわいそうな人」

私は障害を持つあなたを「かわいそうな人」だと、ずっと思っていました。でも、やっと気付きました。あなたは、あなたの人生を、あなたらしく、普通に生きている。ごめんなさい。「かわいそうな人」は私でした。